

可茂農林事務所の普及活動状況 令和8年3月3日現在

今月の重点活動

■農林事務所の活動成果を発表 可茂地域農業振興協議会

2月13日に「明日の可茂農業を考える会」（共催：可茂地域農業振興協議会）を開催し、管内の農業者や関係機関約120名が参加した。

農林事務所から、土地利用型農業のスマート農機のシェアリングによる経営安定に向けた活動成果の発表、いちごの環境保全型農業の実証事例について情報提供したほか、JAめぐみのから優良活動事例が発表された。

講演では、中電ウイング株式会社から「イチゴ栽培の事業化の背景と事業基盤構築への取組」と題して、企業の農業参入と農福連携の取組について講演いただいた。

会場からは、農林事務所やJAの地域農業への支援活動に対する期待の声も聞かれ、農林事務所では、今後も地域農業の課題解決に向けた継続的な普及活動を展開する。



【発表する普及指導員】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■令和8年産へ向けて 栽培研修会・個人面談会を実施 夏秋トマト・美濃白川夏秋トマト部会

白川町及び東白川村のトマト生産者で構成する「美濃白川夏秋トマト部会」では、2月3日に、令和8年産のトマト生産に向けた栽培研修会を開催し、新たな施肥体系と防除体系の説明を行った。

また、2月4日以降6日間にわたり、各生産者の今年度の取り組みや次年度の目標について、JA担当者とともに個別に助言する個人面談会を実施した。

令和7年産は、過去最高の単収を達成した生産者が多く、研修会や面談会で「さらに単収を伸ばしたい」、「より効率的に営農できる体制を整えたい」、「高齢ではあるがまだまだ続けたい」など、意欲的な目標を掲げる声が多く聞かれた。

農林事務所は、各生産者が掲げた計画の実現に向けて、今後も継続して支援を行う。

(園芸産地支援係)



【個人面談会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■水稻の地域牛糞堆肥の活用と化学肥料低減の取組 東白川村の農事組合法人

東白川村の「農事組合法人こしはら稲穂会」のJAめぐみの東白川畜産有機プラントの牛糞堆肥(800kg/10a)を散布したほ場において、不足する窒素成分のみを硫酸で補う実証試験を、農林事務所、全農ぎふ、JAめぐみのが行った。

実証区は慣行と比較して生育や収量に大きな差は無かったが、タンパク質含量が高くなり食味値が低くなった。2月19日、法人に調査結果を報告し、次年度以降の施肥量の改善について話し合い、登熟期間の有効的な肥効試験を継続することとした。

農林事務所では、化学肥料の低減に向けた取り組みを関係機関とともに引き続き推進していく。

(地域支援第二係)



【冬期堆肥散布の様子】